

事務局だより

天寿を全うできる社会に

吉田 和雄

●新年早々私の周囲から訃報や入院の報せがいくつも届いた。今年1月に亡くなられた方で、お一人だけこの場をお借りしてお悔やみ申し上げたい。奥鉄男さん96歳がご逝去された。奥鉄男さんは、岡山県奈義町に住む農民で日本原陸上自衛隊駐屯地の基地撤去を求め生涯闘い抜かれた。日本原基地の実弾演習阻止、基地撤去を求める運動については昨年10月1日号(本誌134号)の内藤秀之さんの報告を参照されたいが、奥さんは一番奥地の耕作の難儀な田んぼで耕作を70年代から体が動くまで「小作権」「耕作権」を行使して自主耕作の田んぼを作り、実弾演習に抗議し続けてきた。いつもバイクで前歯の欠けた笑顔で現れ、集会や実弾演習の実力阻止行動に参加されていた。奈義町に憲法を普及させるため「幻灯機のようなスライド」を使って町で集会をしていたそうだ。日本原の最大の集会は毎年2月11日である。「紀元節粉碎!基地撤去!」が何十年も変わらぬスローガンとして掲げられてきたが、安倍自民党政権になり「改憲」が現実の政治課題に浮上しはじめた今日では、決してアナクロなスローガンとは言えなくなった。

日本原で「紀元節粉碎」がメインスローガンになっていたのは、1970年の奈義町議会が「大日本帝国憲法復活決議」を可決したからであったが、当時は、私たち反戦派諸グループ以外に社会党・共産党という「護憲派」が国会でも常に3分の1議席を占めていた。

だが、今日では「護憲勢力」は国会の議席では衆議院においては「圧倒的少数派」になってしまった。今年の7月に実施される参院選では「ねじれ解消」を名目に、新自由主義・ウルトラ保守主義の自民・改憲勢力が3分の2議席以上を占める恐れが強い。

私たちは憲法9条、25条の実現を掲げて意見広告運動を続けてきたが、国政選挙での「護憲勢力の結集」では到底改憲を阻むことはできないことははっきりしている。ならば「脱原発派の総結集」かあるいは、脱原発派と護憲派の連合か。私たちは少し発想を変えた運動と社会への働きかけを求められているのではないでしょうか。

2月16日、私たちは今年の意見広告運動の紙面、内容をどうするか、市民には何ができるのかを論じ合いました。

●新年、新聞・テレビの話題をさらったのは、大間産のマグロが初競りで1億5千万円の史上最高値がついたという話。朝日新聞では、そのマグロを競り落としたすし屋チェーン店で客がそのマグロ寿司をほおばる写真の上に「東京23区生活保護高齢者都外施設入居4年で2倍」の記事。関連記事を見ると、都

区内から群馬県の「軽費老人ホーム」に移された93歳女性が「今は一日も早く死にたいだけ」と語っていた。こうしている今も立川駅周辺で路上生活をしているIさんが緊急搬送されたと連絡を受けた。だれもが人間らしく生きる、天寿を全うできる社会にしていけるかどうか、自分には何ができるのか、自問ばかりしていてもはじまらないのだけだ。

●「原発御用!」と書かれた提灯が復活します。3・11後の脱原発デモ、人間の鎖行動で使っていた提灯を脱原発テント村に寄贈した



意見広告運動・野澤事務局長参上

後、市民の意見30の会では、もう一度自分たちで脱原発、9条実現の意志を提灯の火で灯そうと思いい、提灯屋に試作品を依頼しました(写真参照)。江戸文字の特注品です。近々集会・デモでお披露目できればと思います。皆さん、春には「市民の意見」のノボリと共に提灯を目印にお集まりください。

(よしだ・かずお/本会事務局長)